

#### 4. もっと知りたい地域のこと～協働で進める地域の情報発信のあり方～

(応募チーム： Code for Niigata + 新潟大学・大串ゼミ)

(評価)

Code for Niigata という市民チームが、①データの相関を見て他都市と比較しながら地域の特色を知る「相関をみる」アプリと②他の政令指定都市から新潟市に引っ越しをしてくる想定でデータに基づく偏差値を取って「引っ越しメーター」で比較するアプリの開発などを進めるものである。その過程で新潟市の提示した課題を自分たちなりに掘り下げていったこと、新潟大学・大串ゼミの学生とのインタラクティブなブラッシュアップをしていったことが評価できる。そして、これに携わった市の職員が①市民・学生のイニシアティブを重んじて「相手のフィールドに入っていく」コミュニケーションに努めたこと、②主役を市民・学生として、サポート役（意図を説明する、市民チームの求めに応じて必要なデータを時には加工しつつ提供する）に徹して行政としての「ルールを敷かない」こと、③市民と行政とを仲立ちする役割として「“つなぎ役”を頑張る」ことを心掛けて COG2016 に望んだことも素晴らしい。そして、これからオープンデータに取り組む自治体がさらに拡大することを考えると「あなたに合う都市が必ずある、そういう情報を提供できるようにすることが地方創生の正しい筋道の一つ」という指摘にも賛同したい。

(アドバイス)

##### (1) 「相関をみる」と「引っ越しメーター」のオープンソース化の実行

アイデアの計画にあるように、今後「相関をみる」と「引っ越しメーター」については、オープンソース化が視野に入っているが、このようなオープンソース化によるアプリの開発はオープンガバナンスの考えと親和性の高いアプローチであり、推奨したいと思います。ただ、これが軌道に乗るためには、これらのアプリを他の地域の市民と自治体の協働で使ってみるといった契機が必要ではないかと思います。そのため、例えば Code for Japan の場などを使ってみるとか、Code for Niigata からの積極的な働きかけを期待いたします。

##### (2) 一般市民や新潟大学・大串ゼミとの連携によるアプリの普及と評価

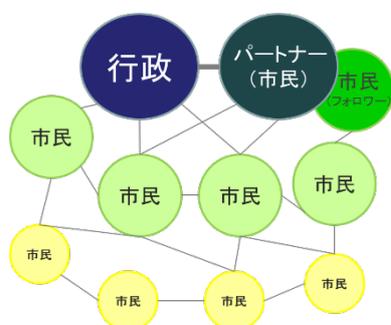
一般市民や学生による「相関をみる」と「引っ越しメーター」のアプリの利用について、例えば市のウェブサイトリンクを貼る、地域の情報誌に掲載する、地域のイベントでPRする、中学、高校、大学で生徒・学生が使ってみるなどの具体的な方策について検討し実行していただけたらと思います。中学、高校については大学生が出向いてやるのも一案かと思います。そして、その利用状況やユーザーの反応からアプリの評価も手掛けていって、その結果を改善につなげる仕組みも工夫していただけたらと思います。こうした取り組みの成果は、(1) による全国展開にも有益な情報となると思います。

##### (3) 庁内の連携へのチャレンジ

今回は担当の市職員の取組だけでできることにとどめたアイデアでしたが、これからは他の部局との連携を図りつつ取り組んでいく必要があるデータや案件もあるので、担当の市職員のプレゼンにあったように、この取り組みを水平展開して他の部局との連携も進めていただければと思います。市役所内で水平的に協力者を得るためには、危機意識を醸成・発信し、まずは、協力してくれそうな担当課・者から巻き込むことが大切だと思います。例えばこの案件の拡大として、観光課、シティプロモーション課、広報課、企業誘致課、情報公開課なども協力関係を構築して対象データをひろげていってはどうでしょうか。これができると COG がさらにしっかり根付いていくと思われまので期待しております。その際に、COG2016 を通して

担当の市職員が気づかれた以下の指摘を行政の中で広めていただけたらと思います。

「それぞれの課題、進化の方向など：地域には多様なアクターが存在し、それぞれが結びついて地域課題の解決に向かうとき、より効果的に活動するために必要なこと。」



アクター	課題・進化の方向
行政 	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「パートナー」としての結びつき醸成</li> <li>• データ・情報の発信力向上と積極公開 → 見つけやすい、扱いやすい</li> <li>• オープンガバナンスによる課題解決手法の浸透（水平展開）</li> <li>• 積極的な市民エンパワメント</li> </ul>
パートナー (市民) 	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 十分な情報とデータの共有</li> <li>• 自律、自立</li> <li>• 低い障壁 → 活動のための時間、場所</li> <li>• 効果的で現実的なインセンティブ → 運営のためのリソース</li> </ul>
 市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 十分な情報とデータの共有</li> <li>• 低い障壁 → 参画しやすい機会・場の設計</li> <li>• 効果的なインセンティブ → 面白い、得する、大切だと思う</li> <li>• スキル・リテラシー向上 → 主体的・自発的取り組みへの発展</li> </ul>